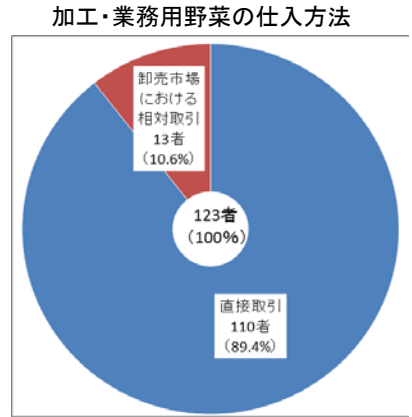
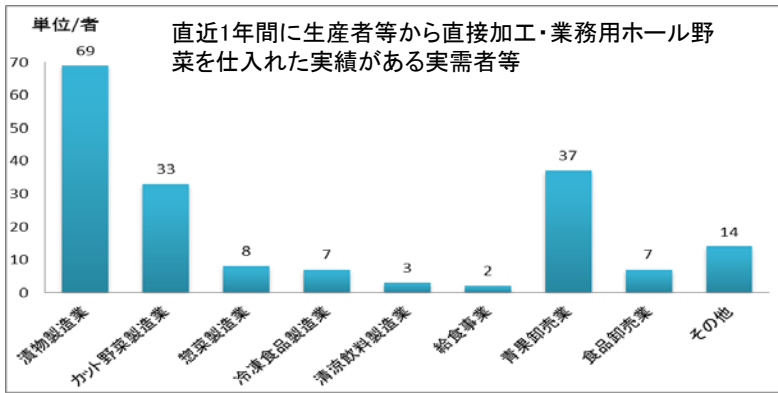


加工・業務用野菜の仕入に係る取引の概要

(「加工・業務用野菜仕入価格等調査」(平成26年3月)の結果から)

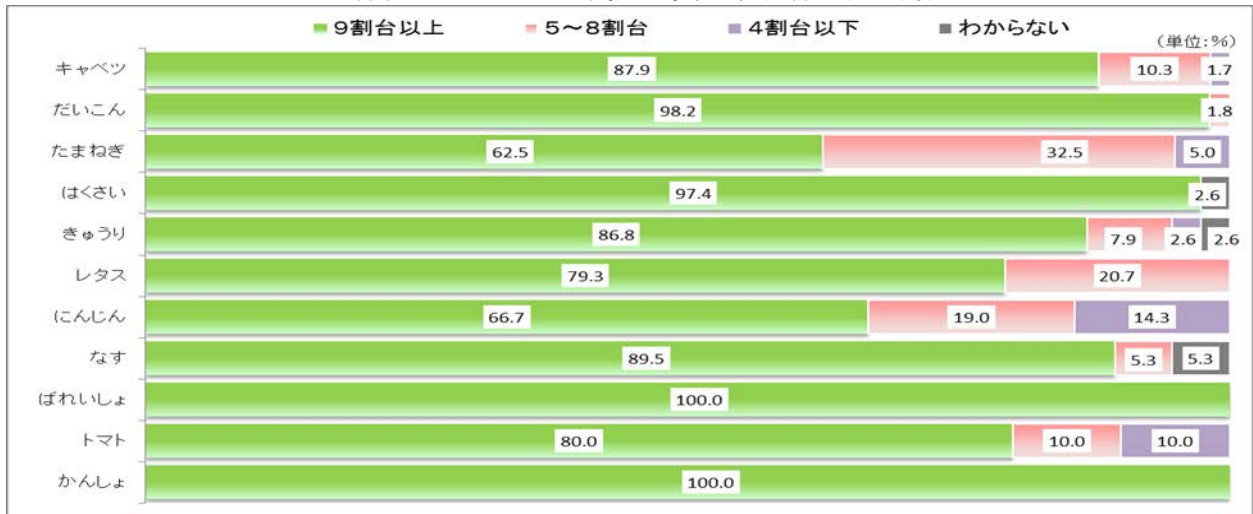
この調査は、当機構が、加工・業務用の国産野菜を扱う実需者、中間事業者に対する仕入方法等に関するアンケート調査を取りまとめたものである。

1 国産の加工・業務用野菜の仕入は、漬物製造業、青果卸売業、カット野菜製造業が多く、生産者等との直接取引が9割。



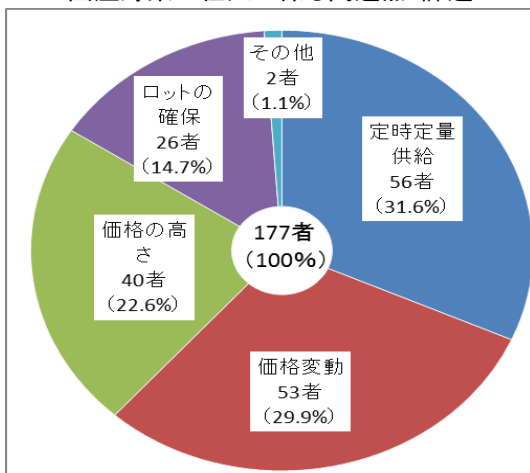
2 国産品の仕入れ割合(品目別)は、輸入が多いたまねぎ、にんじんを除き、9割以上が多い。

品目別にみた加工・業務用野菜の国産品の仕入れ割合

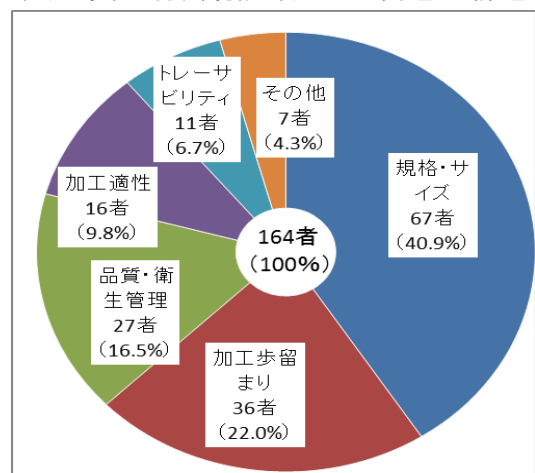


3 国産品の利用促進には、定時・定量供給や価格面、規格・加工歩留まり等の課題対応が重要。

国産野菜の仕入に係る問題点・課題

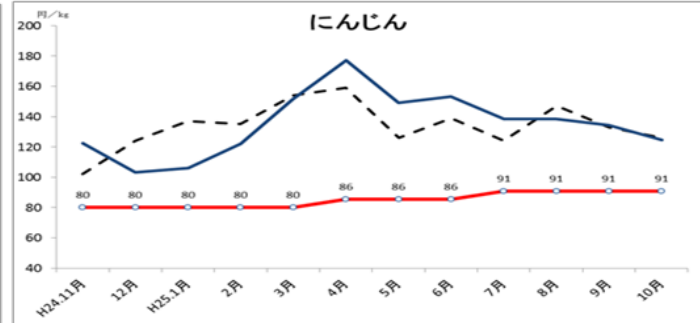
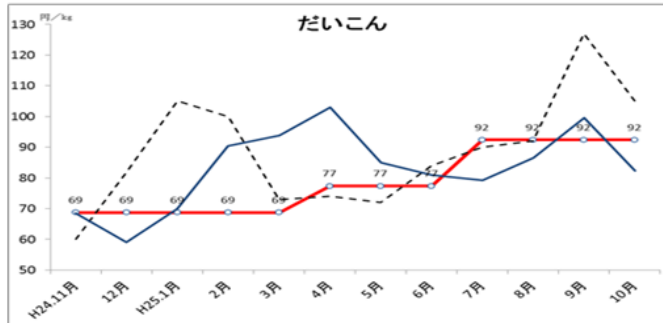
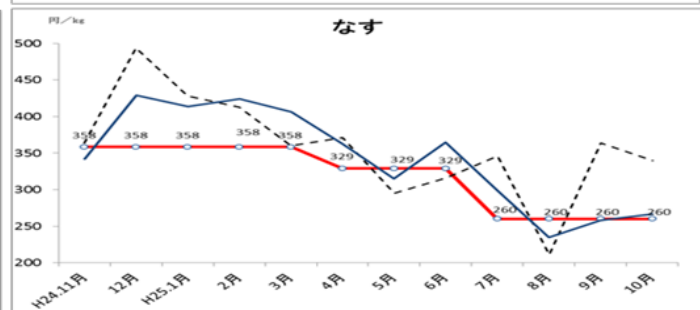
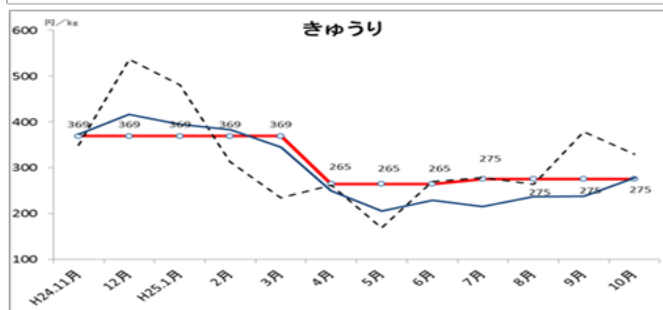
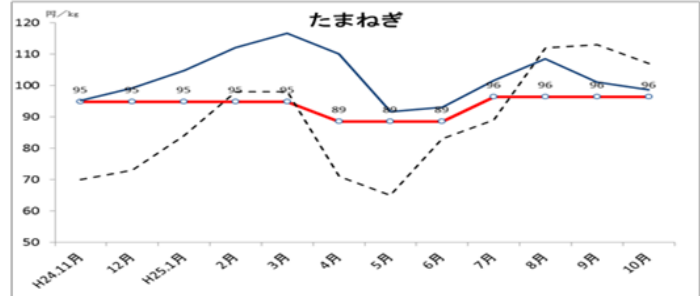
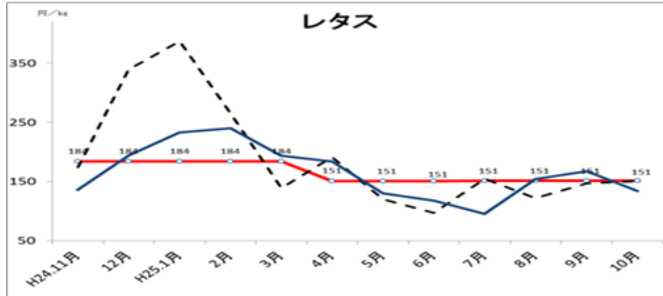
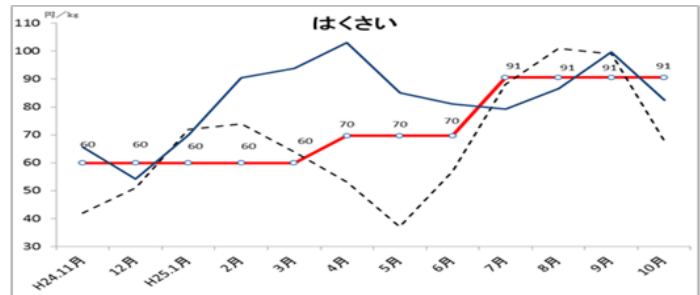
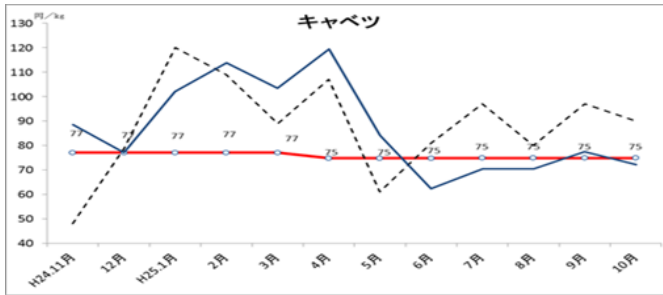


国産野菜の品質規格・管理上の問題点・課題



4 実需者、中間事業者と生産者等との直接取引における仕入価格は、卸売市場価格に比べて、季節毎の価格変動が比較的小さく、年間を通して総じて安定している品目が多い。

○—平均仕入価格 - - -参考:仕入時期における卸売価格 —参考:仕入時期における平年卸売価格



～品目毎の特徴～

- ・ キャベツやレタスなどの露地栽培で、卸売価格の変動が大きい品目においても、仕入価格の変動は小さく、年間を通して、ほぼ一定の価格水準で推移している。
- ・ 果菜類(きゅうり、なす)は、平年の卸売価格とおおむね同様の動きを示し、冬季の価格水準が高くなっている。その要因としては、生産費も参考に取り引価格の決定を行う実需者等において、冬季の加温栽培による燃料費部分が一定程度反映されていることも影響しているとみられる。
- ・ 今回の調査品目(8品目)では、にんじんを除き、季節変動はみられるものの、総じて平年の卸売価格も踏まえ一定水準の取引価格が形成されている。
- ・ 一定量の輸入が常に行われている、にんじんについては、調査期間の平均仕入価格が平年の卸売価格を下回って推移している。

(※上記8品目は、アンケート調査の結果、一定数のデータサンプルが得られたものを集計したものである。)

